1. 前口上

日本国内で刊行されたルイス・キャロルに関する文献を探していると、時にまったく思いもよらないところから新しい発見がもたらされることがある。本稿では、以前に月例会で発表した内容に補足を加えながら、1911年（明治44年）に刊行された『子供の夢』を中心とした書誌的探索調査事例を紹介してみたいと思う。

2. 『ふしぎなお庭』の不思議

鷲尾知治編『ふしぎなお庭』は1925年（大正14年）にイデア書院から刊行されたもので、大正期の『アリス』の翻案として有名である。その冒頭にある「はじめに」と題された序文を読んでいたところ、少し気になる記述に遭遇してしまった。そこには、同書以前の『アリス』の翻訳の例として「不思議の国」「アリスの不思議国めぐり」「こどものゆめ」「地中の世界」の4タイトルが言及されているのであるが、このうち「こどものゆめ」というタイトルだけは、それまで各種の書誌類では目にするのでできなかつたものだったのである。

ちなみに他の3タイトルの書誌的事項を簡単にまとめると、以下のようになる。

- 1) 不思議の国 楠山正雄訳 「世界少年文学名作集」第9巻 家庭読物刊行会 1920年
- 2) アリスの不思議国めぐり 望月幸三訳 紅玉堂書店 1923年
- 3) 地中の世界 鈴木三重吉 「赤い鳥」連載 1921年8月～1922年3月

さてそこで、「こどものゆめ」とはいったい何か？ ということが問題となった訳である。タイトル以外の情報は皆無であるため、ともかくタイトルだけを頼りに調査を開始した。

3. 「こどものゆめ」は『子供の夢』か？

開始したのはいいが、児童書関係の資料が豊富なことで定評のある東京都立日比谷図書館児童室や三康文化研究所附属三康図書館の蔵書目録には該当する本が見あたらない。そこで、国立国会図書館の所蔵を調査することにした。すると『国立国会図書館所蔵明治期刊行図書目録』に次のような記載事項が見つかった。

子供の夢（長編お伽噺） 丹羽五郎編 靱山書店 明44.4 258p 20cm
請求記号は「特22-403」とある。

残念なことに表記が総平仮名ではなく漢字仮名交じりとなっているため、これが『ふしぎなお庭』で言及されているものと同一であるのかどうか確証はない。だからといって目録を眺めているだけでは仕様がわからないので、ともかく現物を請求してみることにした。

出納された現物は、大きさがA5判程度の、厚表紙のいわゆる上製本で、前表紙の表面にはバラの木とトランプのカードの絵があった。そしてタイトル表記は、前表紙では「子供の夢」であるのに対し、背表紙では「こどものゆめ」となっていたのである。なお、タイトルページには「子供の夢」とあることから、背表紙の表記は何らかの手違いの結果とも考えられる。

さて、バラとトランプから本書が『アリス』と何らかの関係があるものと推測されたが、内容を確認してみると、序文の「子供の夢に就て」の冒頭に「此のお伽噺の大体の結構は Lewis Carroll の Alice's Adventure in Wonderland から来て居る。」という記述があり、この本が『不思議の国』をもとにした翻案らしいことが確かめられたのであった。

そして本文を読み始めたのだが、そこで新たな問題に直面することになってしまった。奇妙なことにその文章は、初めて読むものではないように思えたのである。